



日本歯科色彩学会
http://www.jacd-dc.jp

日本歯科色彩学会 ニュースレター

NO.66

日本歯科色彩学会事務局
日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座 内
〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 発行日/令和3年3月19日
発行人/新海航一 TEL/090-211-8171 MAIL/jacd@ngt.ndu.ac.jp

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

第28回日本歯科色彩学会学術大会新日程のご案内

大会長 金子 潤
(千葉県立保健医療大学 健康科学部 歯科衛生学科)

昨年のコロナ禍の影響で1年の延期が決定していた第28回日本歯科色彩学会総会・学術大会を、2021年6月26日(土)、27日(日)の2日間にわたり開催させていただくことになりました。当初は昨年予定していた会場である「山崎製パン企業年金基金会館」(千葉県市川市)で現地集合型の開催を計画しておりましたが、昨年末からの第3波襲来と首都圏の緊急事態宣言2度目の発出を受け、やむなくWeb開催とすることを決断いたしました。しかし、毎年1回開催される学術大会は会員が一堂に会して活発なディスカッションができる数少ない機会でもあり、できるだけ双方向で進められるようにすべての講演をオンデマンドではなくリアルタイムで配信することといたしました。ご参加いただく皆様にとって実りある学術大会になるよう鋭意準備を進めております。

本大会のスケジュールは、1日目(6月26日:土曜日)の午後から常任理事会、理事・評議員会を開催し、2日目(6月27日:日曜日)の午前中に総会、会員発表および特別講演、午後からは講習会1~3を開催する予定となっております。

今回の特別講演は、「審美補綴装置の色調再現性を高めるために」と題して明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野の三浦賞子先生にお願いいたしました。近年では保険適用のCAD/CAM冠から

高透光性モノリシックジルコニアに至るまで、色調選択と情報伝達が重要な鍵を握る場面が以前よりも多くなっています。先生には明日からの臨床に役立つ内容を整理してご提示いただく予定です。

講習会1では、「歯科色彩を応用する考察あるいは提案」と題してカラーランド・Labの元香昭夫先生にご講演いただきます。先生は当学会の創設当初より中心的メンバーとして長年にわたりご活躍され、2019年度から名誉会員とされました。歯科領域における色彩について、色彩学の専門的立場からの貴重なご意見を拝聴できるものと思います。

講習会2では、「“オムニクロマ”直接充填の新潮流」について株式会社トクヤマデンタルの関野雅人先生にご講演いただきます。構造色によって歯質の色彩を再現する初のコンポジットレジン“オムニクロマ”についてのお話しは、参加者をシェード選択の迷いから解放することでしょう。

講習会3では、「最新2D、3D撮影装置を用いた皮膚表面、顔貌評価のご紹介」をテーマに株式会社インテグラルの永岡庸平先生よりご講演いただきます。最先端の皮膚計測機器について、デモンストレーションを含めてお話しいただく予定です。

今年の学術大会はWeb開催ではありますが、講師の先生方には大会運営本部である「山崎製パン企業

年金基金会館」の5階会議室にお越しいただき、ライブでのご講演をお願いしております。世界中がコロナ禍に見舞われて、東京オリンピック・パラリンピックさえ開催が危ぶまれる昨今ですが、一時の有意

義なオンラインでの学术交流が図れるようお願いしております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



“特 集” コロナ禍における奮闘記！



コロナ禍の厳しい情勢になってからはや1年以上が経過しました。日本歯科色彩学会も当初計画していた様々な事業が実施できず、苦渋の思いを強いられています。今号では、そのようなコロナ禍での会員の“奮闘記”をご紹介します。お二人の先生方から原

稿をお寄せいただきました。「歯科医院編」では広島市でご開業の岩崎嘉代先生、「大学編」では朝日大学歯学部の日下部修介先生です。お忙しい中、原稿をご執筆いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

(ニュースレター編集委員長 金子 潤)

コロナ禍における奮闘記！「歯科医院編」

常任理事 岩崎 嘉代
(広島市安佐北区・岩崎歯科医院)

新型コロナウイルスのことをニュースで耳にするようになったのは今年の1月ごろで、今ではあり得ないことかと思いますが、マスクは予防にならないという事も言われておりました。

大変だという専門家もインフルエンザよりも大したことないという専門家が毎日テレビでも発言されていてネットなどで自分でも色々と検索、模索する日々がはじまりました。

2月に入ると、歯科医院の待合室の雰囲気が変わったのを肌で感じました。患者さんどうしがコロナに罹っているのではないかと、思いあっているような何とも言えない雰囲気でした。

医院に入る前のアルコール消毒液も今までは使ってたのか蒸発して減ったのかわからないくらいでしたのに、みるみる減っていきました。

まずは、「このままではいけない」とパーテーションを作りました。

受付時に、非接触で体温を測り、ウイルスを不活化するもオーガニックフードレベルの安全性がある歯

磨きペースト「バイオペースト」を使用してもらうがいてもらい、これまたウイルスを不活化してくれるハンドソープで全員手洗いしてもらうようになって、やっと待合室の雰囲気はよくなりました。

院内の口腔外バキュームも、今回ほど付けて良かったと思ったこともなかったように思います。また、イータックという、ウイルスや細菌に対して不活化作用がアルコールが蒸発しても続くという消毒液であちこち拭いている毎日は今でも続いています。

それでも、嬉しいこともありました。

昨年6月と7月、一人の患者さんから果物を2度頂きました。お中元のご誤配送かと思ってお伺いしましたら、「私たち普通の者でもコロナはものすごく怖い。先生たちはどれだけかと思う。それでも開けて診てくれるんだから、感謝しかない。なので、一つ目はそのささやかなお礼です。」そう言われました。とても胸があつくなりました。

最後に、このコロナ禍の一日も早い収束を切にお祈り申し上げます。

コロナ禍における奮闘記！「大学編」

評議員 日下部 修介

(朝日大学歯学部 口腔機能修復学講座 歯科保存学分野 歯冠修復学)

新型コロナウイルス感染症の影響は1年が過ぎますが、現在も教育、診療に大きな影響を受けていることに変わりはありません。

2020年4月、学生教育はこれまでとは大きく変わり、講義がすべて遠隔講義となりました。6年生の国家試験対策講義を担当している私にとっても大きな打撃を受けました。幸い、時代は紙媒体だけでなくiPadなどを用いて講義を受講する学生も増えてきており、それに対応した教材づくりを、準備してきたこともあり、6月まで何とか講義を進めることができました。しかしながら、6月の試験の成績を見て本当に危機感を感じ、学生の顔を見ながら講義をしないことが学習効果に影響が出ることを実感しました。7月に入り、6年生を含めた一部の学年に対面講義が認められ、12月まで行いました。学生の様子を見ながら講義ができる素晴らしさを初めて感じました。

また、6月からの対面講義再開に合わせて3年生の保存修復学実習が開始されました。3密を避けるために学生140名を2グループに分け、午前と午後と同じ実習を2回繰り返す、変則的なスケジュールとなりました。一日を通しての実習は、かなりハードなものでしたが、8月まで中断することなく、何とか乗

り切ることができました。

1月末の国家試験を迎えるにあたり、6年生の最後の講義は、感染防止対策を鑑みることから、Zoomを利用したライブ配信となりました。若干の不安もあり、質疑応答もメールを通じてのものとなり、学生も教員も必死の中、何とか国家試験まで無事たどり着くことができました。気づけばあつという間の1年でした。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症との戦いは続きます。予測のつかない現状ですが、新しい教育環境を模索し、最善を尽くしていく必要があります。日本歯科色彩学会・学術大会も通常開催され、皆様とお会いできることを願っております。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに、皆様ご健康にはくれぐれもお気をつけ下さいますようお願い申し上げます。

追記；講義を行うに際しては、学生時代お世話になりました新海航一学会長の講義資料をいつも参考にさせていただいていることをこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

2020年度 各種委員会報告

表彰選考委員会（委員長 平山 聡司）

日本歯科色彩学会の学会誌「歯科の色彩」26巻1号に掲載された原著論文について表彰選考委員会で検討いたしましたところ、以下の論文が令和2年度日本歯科色彩学会賞に決定いたしました。

【学会賞】

論文名：シェードガイドを用いた視感評価による歯の白さの認識

著者：堀田正人，日下部修介，二階堂 徹

【奨励賞】

該当なし

なお、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い第 27 回日本歯科色彩学会学術大会が延期となりましたの

倫理・利益相反委員会（委員長 高橋 英和）

近年は産学連携が推進され、大学の研究者においても外部資金を用いて研究を遂行することも増えています。しかし、外部資金などの「経済的な利益関係」によっては、研究内容の公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態が生じます。そのため、利害関係が想定される企業等との関わり（利益相反；COI）がどのような状況であるのかを明らかにする必要があります。利益相反があることは決して悪いことではないので、適切に公表する必要があります。日本歯

講習会委員会（委員長 平山 聡司）

令和 2 年度第 28 回日本歯科色彩学会総会・学術大会における講習会について下記のように開催準備をして参りました。

演者：元呑 昭夫先生（カラーランド・Lab）

演題：「歯科領域で色彩を応用する環境についての考察あるいは提案」

しかし、折角の講習会も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い学術大会が延期となってしまいました。そこで令和 3 年度第 28 回学術大会は、金子潤大会長のもとで本年 6 月 27 日（日）に Web 形式による開催が決定し、実施に向けた準備が進められております。その中で講習会委員会としては、再度元呑先生に講習会演者を依頼いたしましたところ、ご快諾を頂く事ができました。

元呑先生は、日本歯科色彩学会の設立時のメンバーでもあり、一昨年まで常任理事として学会の発展にご尽力して頂きました。色彩研究に関する豊富な

で、令和 2 年度は学会発表に対する表彰はありません。

令和 3 年度は Web 開催となりますが、多くの学会発表が選考対象となりますよう会員皆様のご参加をお待ちしています。

科色彩学会においても学会講演、論文発表に関する利益相反に関する規定を 2020 年に制定しました。

また、ヒトやヒト由来の試料を対象とする研究は、いくつかの例外があるものの、倫理審査委員会に諮る必要があるとされています。そこで、大学などの倫理審査委員会に申請できない会員のために、学会の倫理審査委員会で審査できるように現在規則等の検討を行っています。倫理審査委員会の規則等に要望がございましたら是非お知らせください。

知識と研究経歴をお持ちの先生に、今後の歯科色彩研究の進むべき方向性や若手研究者に対するアドバイスなどを含めご講演頂く予定です。

さらに講習会委員会では、第 28 回学術大会における特別講演会として「オムニクロマ」に関する講演を以下のように開催することとなりました。

演者：関野 雅人氏（トクヤマデンタル）

演題：「オムニクロマ」直接充填の新潮流

昨年、11 月 24 日に市販されたトクヤマデンタルの「オムニクロマ」は、「シェードのない CR」として海外で高い評価を得ており、国内販売後も臨床家にとって色調選択に迷わない、在庫管理がし易いとあって大反響のようです。トクヤマデンタル独自の球状フィラー技術と構造色発色を組み合わせた新しいコンポジットレジンの開発経緯やそのテクノロジーについてご講演頂く予定です。

コロナ禍で日本全体が明度を落としていく中、第

28回学術大会ではこのような明るい歯科色彩のミライに関するテーマで講演会を行いますので、会員の

皆様に置かれましては、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

見学会委員会（委員長 中澤 章）

－2020年度 日本歯科色彩学会特別企画 コロナ対策オンライン講演会開催される－

さる2021年2月27日（土）午後7時から、東京歯科大学名誉教授奥田克爾先生のオンライン講演会が開催されました。この度のコロナ禍により学会や見学会などの行事は軒並み延期となり、2020年度の行事が行えない状況が続いていました。そこで見学会委員会、講習会委員会、認定士委員会が合同でZOOMによるライブ講演会を企画いたしました。

当日は三十数名の参加を得て、奥田先生には『コロナ禍における医療・口腔ケアの役割』と題して、熱弁をふるっていただきました。

第1部『信頼の歯科医療はスタンダードプレコーションの遵守から』では、医学の父ヒポクラテスが、スケーラーを作ったという話にはじまり、肝炎ウイルス、産褥熱の感染予防には、ゴム手袋や塩素水による消毒があったとして、コロナ禍においてもスタンダードプレコーションの遵守が強調されました。コロナ対策として空気清浄機＋加湿が推奨されているが、レジオネラ肺炎対策として加湿器の洗浄の必要性を説明され、また、レジン床カンジタは義歯性潰瘍の増悪因子であり（不適合だけが原因ではない）、介護施設などで洗浄剤の予算がなく水につけておくだけでは、カンジタが取り除けず、レジオネラ菌の増殖も起こしてしまうので、デンチャーブラシによる機械的清掃を優先すべきと述べられました。器具・補綴物の消毒薬についても、グルタルアルデヒド、次亜塩素酸ナトリウム、アルコールの選択について解説されました。

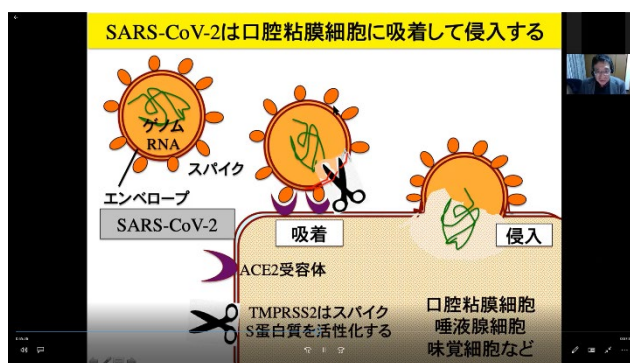
第2部『コロナ禍における歯科医療・口腔ケアの役割』では、オーラルヘルスは健康ライフの基盤であるとして、口腔内細菌による肺炎、また歯周病菌の歯周ポケットからの侵入により動脈硬化、糖尿病、がん、アルツハイマー病など全身疾患に影響することを解説されました。ウイルスについては、インフルエンザウイルス、高病原性新型インフルエンザ、新型コロナウイルスそれぞれに標的とする細胞、臓器があり、コロナワクチンについては、ファイザー社、モデルナ社、

アストラゼネカ社など各社ワクチンの特徴について詳細に解説され、2回接種により圧倒的に効果が上がるデータを示されました。

まとめとして、口腔内細菌がウイルス感染と重篤化に加担するので、感染予防に抗菌性洗口液の活用し、口腔ケアを行うことが、口腔内細菌数を減少させ、コロナウイルス肺炎を抑えるとされ、さらに注目のワクチン接種については、ご自身も接種すると期待を述べられました。

本来であれば難解な内容を、きれいなイラストを多用され、身振り手振りを交え、わかりやすく解説されました。前日78歳のお誕生日を迎えられたとは思えないエネルギッシュな講演で、あっという間の100分でした。コロナだけでなく、日常の歯科診療や技工にも参考になり、感染予防対策における保険点数評価の向上、わが国におけるワクチン開発予算の必要性などにも触れられ、歯科界のみならず、社会に対してぜひこれからも発信していただきたいと感じた次第です。

最後になりましたが、日毎に進展する最新コロナ情報まで、綿密な準備をして解説していただいた奥田克爾先生に厚く御礼を申し上げるとともに、会員への還元事業とはいえ、このような企画にご理解をいただいた新海航一先生、スムーズなホスト進行をしていただいた平山聡司先生、ポスターを制作された木暮ミカ先生、事務局の鈴木雅也先生に厚く御礼申し上げます。



オンライン講演会の様子

【見学会委員会報告】

2021年2月27日 特別企画 コロナ対策オンライン講演会開催

『コロナ禍における歯科医療・口腔ケアの役割』
東京歯科大学名誉教授 奥田克爾先生

なお、昨年度より企画のヨシダ見学会は実地見学ができるまで延期の予定です。

国内渉外委員会（委員長 市村 葉）

コロナ禍の影響で、今年度は学術大会、見学会などが中止、延期、Web開催になったりと、皆で集まることが困難な状況が続いており、渉外担当の私も、思うような活動ができませんでした。来年度の秋以降のいくつかの学会でも、既にWeb開催にするなど、まだまだこの状況は続きそうです。そのような訳で、今回は、今後の渉外に活動についての一案を挙げてみました。

当初は、Web開催の学術大会とは、どのようなものかあまり感覚が掴めませんでした。実際、利点も多々あり、概ね好評であったと聞いています。今年度は様々な形態のWeb開催という新たな手法を体験して、色々な可能性も見えてきたように思います。

色彩学会においては、毎回、好評の見学会など、残念ながら参加できなかった会員の方々に、一定期間Web参加を可能にする、再度、じっくり視聴できるようにする、などフィードバックが出来るようなシステムにすると、より多くの会員の方々と繋がるこ

とが出来、新たな意見やアイデアを得ることが出来るのではないかと思います。これはWebならではの利点ではないでしょうか。学会場で、直接ディスカッションすることも重要ですが、会場に来られる方は、残念ながら会員の一部に過ぎないので、普段、学会には参加しないが興味のある会員の方々の新鮮な意見を知るツールになると思われれます。また、会員以外の方々にも本学会を知ってもらうツールとして活用するなど、渉外担当としては、必要不可欠なツールになるのではないかと期待しています。

それには、下地作りやシステム構築、著作権等、大変な問題も解決していかなければなりません。開かれた渉外活動という点で、広く効果的な成果が得られるのではないかと考えています。来年度の課題にしていきたいと思っております。

さて、未だ外出自粛要請の続くなか、ワクチンの承認が1つの希望にはなっています。コロナ禍を福となすような今後の色彩学会の発展を願っています。

機関紙編集委員会（委員長 堀田 正人）

－機関誌「歯科の色彩」の現状と方向性について－

2019年度から東光照夫編集委員長の後任として機関誌編集委員長を拝命しております朝日大学歯科医師生涯研修センターの堀田正人です。2020年はコロナ禍に始まり、コロナ禍で終わるという異例の年となりました。「不要不急の外出自粛」が要請されるなど、これまで我々が当たり前前に享受してきた日常生活様式の変革を余儀なくされて、本学会の今年の学術大会もキャンセルとなりました。しかし、このような状況の中でも、機関誌「歯科の色彩」第27巻第

1号は昨年12月4日に投稿論文が締め切られ、本年1月31日には印刷所に出稿される予定です。3月31日には予定通り発行され、発送されるスケジュールとなっています。原著論文を投稿して頂いた本学会員の先生方には密度の濃い論文を執筆して頂きありがとうございました。また、発行に関しましてはご協力いただいている新海航一会長をはじめ、学会事務局の鈴木雅也先生、機関誌編集委員の新海航一会長、金子潤先生、平山聡司先生、市村葉先生、さらには

査読者となって頂きました諸先生方に心より感謝申し上げます。

機関誌編集委員会としては機関誌「歯科の色彩」を見つめ直し、その抱える現状と今後の機関誌の方向性を皆様と共有したいと考えています。

まず、機関誌「歯科の色彩」の抱える現状ですが、学会員数、論文投稿数は減少の一途を辿り、2020年11月30日現在では会員数115名、論文の投稿数も3篇と減っております。論文の投稿数の減少は業績としてカウントされるものは原著論文、それも国際誌に限るといった評価の傾向が和文誌の運営に大きく影響を与えています。また、機関誌の運営には機関誌の質の担保、運営費の削減、編集委員の業務負担等さまざまな面の課題がありますが、新海会長になって、第26巻第1号から学術大会で講演していただいた先生方には総説として執筆依頼を行っており、印刷所も株式会社ミューズ・コーポレーションになり、印刷の質を落とさず、印刷費は従来半額以下となりました。編集委員や査読者の先生にはエネルギーに業務を遂行していただき、発行スケジュール通りに会員の皆様にお届けできるようになりました。

しかしながら、創刊から27年を迎えた機関誌「歯科の色彩」を取り巻く環境は大きく変わりつつあり

ます。オープンサイエンス時代となり、あらゆる人が学術研究成果にアクセスして、研究活動に参加することを可能にする環境が整備されようとしています。科学的知見は広く活用されることが、専門分野の活性化につながりますが、学会員だけのものではなく、学術のオープン化によるイノベーションを加速させようとする動きとなり、学会運営の新しいビジネスモデルの確立が新たな課題となってきています。このことを考えますと、学会活動の報告はもちろんのこと、広く歯科の色彩に関する情報発信と交換の場を提供するという極めて重要な役割を担っている機関誌「歯科の色彩」は多くの会員の方にとって魅力的で、産学官民（大学、研究所、企業等）にも有機的な連携を促進させる魅力的な雑誌とならなければならないと思います。

今後は原著論文だけでなく、多くの読者の目に触れることを考えた多様なコンテンツを集め、多様な現場での知見の報告（有用な国内外の良質の情報等）を掲載した機関誌にならなければならないのではと考えております。コロナ禍を乗り越え、さらなる機関誌の発展をめざし、「歯科の色彩」の未来を読者、投稿者をはじめ、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。どうぞ、ご支援の程、よろしくお願い致します。

ニュースレター編集委員会（委員長 金子 潤）

2020年度のニュースレターは例年通り9月および3月に発行を計画しておりましたが、コロナ禍の影響で学術大会や見学会が中止となるなど学会活動自粛の影響もあり、9月発行予定をやむなくキャンセルいたしました。年が明けて2021年になっても世界的な感染拡大の状況は続いておりますが、このような時こそ会員の皆様に情報をお伝えするのがニュースレターの役割と考え、この度No.66の発行にこぎつきました。

現在のニュースレター編集委員会は、中山友克先生、小澤有美先生、そして金子の3名で構成されています。また、新海会長にも特集のアイデアなどアドバイスをいただきながら編集作業を進めています。今後も会員の先生方に学会活動の情報をできるだけ迅速にお送りすべく努力してまいります。もしもニュースレターの原稿依頼が編集委員から届きましたら、何とぞご協力のほどお願いいたします。

— 日本歯科色彩学会ホームページ現状報告と展望 —

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、既に皆様周知のことと思いますので割愛いたしますが、本会に限らず教育機関・学術団体としては活動を継続させていかなければならない中で、人と接触せずに恒常的な活動を行い、コミュニケーションの幅を広げていくにはホームページ活用や web 戦略の強化が欠かせません。

令和 2 年度の実績

1. 構成：現在、本会ホームページは下記のような内容で構成されています (図 1)。

- 1) トップページ (更新情報の掲載)
- 2) 会長挨拶
- 3) 入会方法
- 4) 役員名簿
- 5) 総会・学術大会情報と各大会ホームページへのリンクを掲載
- 6) 機関誌「歯科の色彩」バックナンバーと掲載されている原著論文のタイトルを掲載
- 7) ニュースレターのバックナンバー
- 8) JACD 認定士 (申請方法や認定士一覧)
- 9) 見学会・講習会
- 10) 本会に関する学会および賛助会員のホームページへのリンク

2. 統計：今年度の年間訪問者数は 29,618 で、月平均 2,672、一日あたりの平均は 87 でした。特に 7 月は 3,298、8 月は 3,860 と多くの訪問者がありました (表 1)。

3. 更新状況：今年度は以下の内容を更新しました。

- 1) 2020 年 3 月 24 日：ニュースレター vol.65 掲載
- 2) 2020 年 5 月 13 日：第 28 回大会の延期について
- 3) 2020 年 7 月 6 日：歯科色彩学会総会について



図 1

- 4) 2020 年 12 月 17 日：投稿規定の更新
 - 5) 2021 年 2 月 17 日：第 28 回大会について
4. オンライン会議：第 1 回 常任理事会が 12 月 16 日(水)に ZOOM ミーティングで開催されました。参加者は 13 名、開催時間は 18 時から 20 時の 2 時間でした。会議中は回線の不具合もなく参加者の発言も滞りなく行われ、スムーズに実施するこ

表 1

月の統計												
月	一日あたりの平均				月合計							
	Hits	Files	Pages	Visits	Sites	KBytes	Visits	Pages	Files	Hits		
Mar-21	965	881	176	76	279	288,064	229	529	2,643	2,897		
Feb-21	964	885	160	81	1,760	1,708,069	2,277	4,494	24,795	27,008		
Jan-21	867	784	137	79	1,921	1,801,302	2,470	4,255	24,304	26,882		
Dec-20	921	839	179	86	1,827	2,108,799	2,679	5,574	26,023	28,580		
Nov-20	786	716	131	78	1,689	2,365,988	2,341	3,938	21,509	23,581		
Oct-20	755	679	131	78	1,674	3,082,296	2,435	4,083	21,060	23,409		
Sep-20	791	708	159	93	1,743	5,596,558	2,793	4,776	21,246	23,730		
Aug-20	973	836	288	124	1,901	6,840,579	3,860	8,953	25,937	30,179		
Jul-20	941	801	222	106	1,870	3,755,470	3,298	6,904	24,856	29,174		
Jun-20	953	846	190	87	1,516	2,536,741	2,618	5,703	25,392	28,590		
May-20	940	833	172	80	2,487	2,199,672	2,481	5,339	25,844	29,161		
Apr-20	857	794	165	71	1,643	2,036,991	2,137	4,951	23,823	25,732		
平均				87			2,672					
標準偏差				15			477					
総合計						34,320,529		29,618	59,499	267,432	298,923	

とができました。

本会ホームページの展望

現在の本会ホームページは過去の活動内容と会員情報のみで、本会の魅力や社会的意義を発信するには情報が希薄です。学会の存在を歯科界のみならず一般の方に向けてアピールするためには、本会ならではの特色のある情報を積極的に発信する必要があります。また、まだまだ未知の領域である「色の世界」を探究するためには国内外の研究者とコミュニケーションを取ることも必要と思われます。そういったオンラインで気軽に意見交換できる場を本会ホーム

ページで提供できれば、本会の存在意義を高めることができるのではないのでしょうか。また、色の世界はあまりにも漠然としているため、本会が求めるターゲット層を絞り込んで（例：測色法の他に、過去の見学会で好評だったデジタルカメラやメイクなどの情報）、ターゲットのニーズにマッチした情報の発信をすることで会員獲得に繋がるのが期待できます。そのためにはホームページの運用に関する PDCA サイクルを回し、定期的に見直しをする必要があると思います。

認定士委員会（委員長 中山 友克）

日本歯科色彩学会認定士制度が発足して 20 年になります。現在、13 名の会員が認定士の資格を取得し、研究・臨床・教育にご活躍されています。認定士の資格は、7 年で更新となり、更新にあたっては、7 年間の間に「日本歯科色彩学会の学術大会に 4 回以上出席すること」や「歯科色彩に関する報告を 3 回以上行うこと」などの要件を満たしていなければなりません。（詳細につきましては「日本歯科色彩学会

認定士制度施行細則」をご参照下さい。）そこで、学術大会などへ積極にご参加いただければ幸いです。

また、認定士資格取得の申請も随時受け付けておりますので、まだ取得されていない先生方もぜひ取得していただき、歯科色彩学の高度な研究と水準の維持向上を図っていただければ会の発展にもつながりますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



学会事務局よりお知らせ

幹事 鈴木 雅也

(日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座)

学会事務局の運営に携わるようになってから2年が経過しようとしております。2年目の2020年は本学会もご多分に漏れずコロナ禍の影響を受け、残念ですが様々な活動を縮小せざるを得ませんでした。早期の終息を願うとともに、会員の皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。このような状況の中ではありますが、「歯科色彩学」にご興味をお持ち

の方がいらっしゃいましたら、ぜひ本学会をご紹介いただけますと幸いです。入会申込書はホームページからダウンロードできますのでご利用下さい。

住所やメールアドレスの変更、入会・退会につきましては学会メールアドレス(jacd@ngt.ndu.ac.jp)にお知らせ下さい。また、何かご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。



【編集後記】

2020年は、新年度早々に緊急事態宣言の発令から始まり新型コロナウイルスとどのように共存していくべきなのか考えさせられた一年でした。どの方も、これまでと同じような生活スタイルでは通用しないと痛感したことと思います。

今回の特集記事「コロナ禍における奮闘記！」に紹介されました岩崎嘉代先生や日下部修介先生のように、試行錯誤しながら患者様が安心して歯科受診していただけるように診療室の環境整備や、学生に対してどの様にしたら理解してもらえる講義になるのか教育のすすめ方など奮闘された先生方ばかりかと思えます。

でも、この状況が生じたからこそネット環境を利用して仕事のあり方について世の中の考え方も変化してきています。Zoomなどを利用してオンラインで

の会議や講演会、テレワークなど新しいスタイルでの交流が増えていくことでしょう。

そして、先日新しい試みで日本歯科色彩学会オンライン講習会が行われました。東京歯科大学名誉教授 奥田 克爾 先生に講演をして頂きました。免疫学のお話から最新の新型コロナウイルスの感染防止ワクチンの情報とオーラルヘルスケアがこれからの時代さらに重要であることも熱く語り頂き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

新しい時代へ順応していくことは、かなりエネルギーが必要です。まずは、健康で過ごすこと。そして、with コロナでも多くの皆様と新しいスタイルで集い、活気のある会であり続けることを願っております。

(小澤 有美)



日本歯科色彩学会ニュースレター編集委員会 金子 潤、中山 友克、小澤 有美